



女性のかで
誰もが安心して暮らせる
豊かな社会を

第3回
「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞

表彰式

全国127件の応募から、地域の社会変革に地道に取り組んできた6名の女性リーダーが入賞！
表彰式では、入賞者を讃えるとともに1名の大賞受賞者の発表を行います。



石川 えりさん
認定NPO法人
難民支援協会



大嶋 栄子さん
NPO法人
リカバリー



高橋 由佳さん
認定NPO法人
Switch



藤原 久美子さん
DPI女性障害者
ネットワーク



森 祐美子さん
認定NPO法人
こまちぷらす



山里 世紀子さん
一般社団法人サポート
センターHOPE

12月9日 月 18:00~20:00

第1部

18:00~19:00 表彰式

第2部

19:00~20:00 交流会

会場:(株)内田洋行東京ユビキタス協創広場CANVAS(東京都中央区新川2-4-7)
東京メトロ日比谷線 八丁堀駅「A4」出口より徒歩4分

定員100名

参加費無料

参加申込

[https://forms.gle/
CatBZmWCVippMyzT8](https://forms.gle/CatBZmWCVippMyzT8)



「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞についてはコチラ▶ <http://jwliccja.org/>

- 主催:フィッシュ・ファミリー財団 / 公益財団法人パブリックリソース財団
- 協賛:Tiffany & Co. / Dow Chemical Japan
- 協力:株式会社 内田洋行 / Japanese Women's Leadership Initiative (JWLI)

お問合せ(日本事務局) 公益財団法人パブリックリソース財団 TEL:03-5540-6256 E-mail:champion@public.or.jp

石川 えり（いしかわ えり）さん 東京都
認定NPO法人難民支援協会 代表理事



難民が安心して暮らせ、ともに生きられる社会の実現を目指す

1994年のルワンダ内戦を機に難民問題への関心を深め、大学在学中に難民支援協会の立ち上げに参加。来日直後から自立に至るまで難民一人ひとりの道のりに寄り添ういっぽうで、難民を受け入れられる社会を目指し、個人や企業、政府等への働きかけを行っています。2018年に難民認定されたのはわずか42人という、難民の受け入れに多くの課題を抱える日本で、今年設立 20 周年の協会は6,000 人を超える難民を支援してきました。

大嶋 栄子（おおしま えいこ）さん 北海道
NPO法人リカバリー 代表



さまざまな被害体験を持つ女性が、社会で生きる力を取り戻すために

アルコールや薬物の依存症や摂食障害、うつ病の女性の背後には多くの暴力被害がある—精神医療の場でソーシャルワーカーとして働くうちに気付いた問題に取り組むため、2002年にそうした被害体験を持つ女性を包括的に支える施設を立ち上げました。“recovery”とは病気や障害のために失ったものを取り戻すことを意味します。こころの病気や障害を抱える女性が、グループホームでの生活や就労支援などを通して社会で生きる力を取り戻しています。

高橋 由佳（たかはし ゆか）さん 宮城県
認定NPO法人Switch 理事長



困難を抱える若者一人ひとりに寄り添い、「学ぶ」「働く」を支える

こころの不調などから不安や悩みを抱え、なかなか一歩が踏み出せず「学ぶこと」や「働くこと」をあきらめ、社会から孤立している若者は少なくありません。Switchは仙台と石巻を拠点に、障害者の就労支援や困難を抱える高校生・大学生など10~30代の方の復学・就労のサポートを行っています。幅広いステークホルダーの力を借りた伴走型の支援が特徴で、地元企業と連携した就労サポートや、農業・漁業を通じた中間的就労なども展開しています。

藤原 久美子（ふじわら くみこ）さん 東京都・兵庫県
DPI女性障害者ネットワーク 代表



「障害」と「女性」という複合差別の解消に取り組み続ける

病気の合併症により30代で視覚障害者となった藤原さんは、妊娠した際に医者と親族から「障害児が生まれるリスクが高い」「障害があつて子どもを育てられない」と中絶を勧められた経験があります。後にこれが複合差別—障害者であり女性であることで、社会で直面する複合的な困難であると感じてからは、他の障害当事者とともに優生保護法問題の解決や障害のある女性の自立促進、エンパワメントを目指し、国内外への働きかけを続けています。

森 祐美子（もり ゆみこ）さん 神奈川県
認定NPO法人こまちぶらす 理事長



カフェから子育て中の母親のエンパワメントをし、埋もれてきた言葉にならない課題をまちの力で解決する

トヨタ自動車株式会社にて海外営業等を経て現職。出産直後に感じた孤独な育児をなくしたいとの思いを原点に、2012年にママ友数人で「こまちぶらす」を設立。横浜市戸塚区の商店会の一角で運営しているこまちカフェは「まちの担い手」がいつの間にか生まれる居場所として各地で参考にされています。また、まちの中の埋もれている課題を拾い、「おむつ自販機」など地域住民や企業と共に解決策を考え、共に形にし、広げています。

山里 世紀子（やまざと せきこ）さん 沖縄県
一般社団法人サポートセンターHOPE 代表理事

石垣島の子どもや若者が安心して過ごせる居場所を

離婚をきっかけに二人の子どもと移り住んだ石垣島で、沖縄県の配偶者暴力相談支援センターの相談員となった山里さんは、弱者となりがちな子どもと母親の支援の必要性を感じ、すぐに有志で子育て支援NPOを立ち上げました。さらに署名を集めて市内にファミリーサポートセンターと児童館を開設。共働きやひとり親世帯が多い中、施設運営を通して子どもたちの困難な状況をとらえ、子ども若者支援や学習支援、フードバンクなど幅広い活動に乗り出しています。

